

# 序

「免疫はわかりにくい」、「免疫疾患は診断も治療も難しい」という声を耳にします。全身を再循環するリンパ球が免疫を司り、リンパ球にはいくつかのサブセットが存在し、多彩な表面分子やサイトカインを介して細胞間で情報伝達し、複雑な細胞内シグナルを活性化し…。確かに活字から入ると大変です。しかし、イラストならばイメージが湧くはずで、本シリーズは、医学・生物学系を専門とする学生、大学院生を主な対象とし、「目で見てわかる」書籍をめざしています。今回、『免疫・アレルギー疾患イラストレイテッド』は、自己免疫疾患やアレルギー疾患をイラストでわかりやすく解説する教科書として仲間入りしました。

「免疫疾患をイメージ」してください。免疫系は自らを守るために、微生物から数百万年をかけて進化してきたシステムです。多様な抗原に対応できる、次の侵入に備えて記憶できる、自己には寛容であるなどの特徴を具備します。生体を守るしくみそのものなのです。しかし、自己を抗原と誤って認識し、記憶し、寛容でなくなると、自己免疫疾患を発症します。抗原に対して過剰に反応すれば、アレルギー疾患を呈します。このような疾患のメカニズムについて、イラストをみながらイメージすることからはじめてほしいと願っています。

「免疫疾患研究はおもしろい！」と言われるようになってきました。免疫学的ツールを用いて、免疫難病を制御できるようになってきたからです。例えば、関節リウマチの病態形成過程で重要な役割を担うTNFやIL-6を標的として、抗体を用いたピンポイント治療を施せば、関節破壊の進行を抑止できます。このような治療革命は、さまざまな免疫・アレルギー疾患に応用され、最も注目される分野になりました。本書は、進歩の速い免疫疾患の最先端の知見まで解説されています。

『免疫・アレルギー疾患イラストレイテッド』は、免疫のしくみ、全身性自己免疫疾患(膠原病)、臓器特異的自己免疫疾患、アレルギー疾患の4部構成です。免疫・アレルギー疾患領域のオールスターの先生方にご執筆いただきました。疾患の発症メカニズムから薬の作用機序まで、網羅的な内容にいただきました。「目で見てわかる」教科書をつくるために、多大なるご協力を賜りましたことを心から御礼申し上げます。読者の皆様には、免疫疾患をイラストから理解し、イメージを自由に膨らませていただきますことを期待しています。

2013年7月

田中良哉